

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ : 報告数3件で、10歳以上からの報告でした。

小児科定点

(全体傾向) 報告総数3,075件(前月比0.56、前年比1.27)でした。感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナの減少により報告数の前月比が約半数となっています。ただ前年同月比は、1.27(H26年2,428件、本年3,075件)と増加しています。昨年に比べて増加したもので、目立つのは、手足口病(同389から670)、伝染性紅斑(同6から122)、流行性耳下腺炎(同23から130)です。減少が目立つのは、水痘(同154から28、前年同月比0.2)でした。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 報告数59件(前月比3.5、前年比2.1)、6月4件、7月17件から次第に増加しています。宇城から27件(定点あたり6.8)の報告があり目立ちます。年齢は1歳以下が大多数ですが、2歳、4歳、7歳にも報告があります。昨年同月は28件でしたので、これからは注意が必要と考えます。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数38件(前月比0.6、前年比0.7)と例年よりは少ないようです。菊池からの報告12件(定点あたり2.4)と宇城から8件(同2.0)が多いようです。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数186件(前月比0.7、前年比0.9)です。菊池32件(定点当たり6.4)が多く、熊本(94件、定点当たり5.9)、天草(21件、定点当たり5.3)からの報告が多いようです。年齢幅は、いつもと同じく4～5歳を中心とした幅広い報告があります。例年並みの推移でこれから一旦減少すると考えられます。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1026件(前月比0.6、前年比1.1)と例年並みの推移で減少傾向にあります。例年通りに阿蘇を除く各地から二桁以上の報告があり、菊池227件(定点当たり45.4)、有明172件(同34.4)、八代126件(同31.5)からは三桁の報告です。報告が少ないのは、阿蘇(8件、4.0)、天草(同23、5.8)でした。三歳以下の各年齢では二桁の総数の報告でした。
5. 水痘 : 報告数28件(前月比0.3、前年比0.2)と、報告数が減少してきており、5月以降は二桁となりました。天草5件(定点あたり1.3)以外の地区はすべて、定点当たりの報告が1以下となっています。6月から3歳の年齢で各々4名の報告があります。昨年10月より定期予防接種が開始されていますが、今の所年齢では発生を防ぐことはできていないようですが、報告数は今年に入り減少しています。季節的なこともあります。今後増加に転じなければ、予防接種の効果が始まったと考えられるでしょう。
6. 手足口病 : 報告数670件(前月比0.4、前年比1.7)と、7月からは半減しました。昨年に比べれば、まだ多いのですが、一昨年とほぼ同様の推移です。特に多いのは菊池で、126件(定点あたり25.2)で、次に熊本276件(同17.3)でした。他に定点当たり二桁の報告があったのは、山鹿、天草、人吉、有明でした。阿蘇、御船は少ないようですが、県下全域から報告がありました。6ヶ月～3歳を中心としていますが、他の年齢でも報告がありました。今年の原因ウイルスとしては、コクサッキーA16型が優位に分離されています。
7. 伝染性紅斑 : 今年4月頃より急に増加しています。報告数は122件(前月比0.9、前年同月比20.3)です。人吉から35件(定点あたり11.7)の報告が目立ちます。八代21件(同5.3)、天草13件(同3.3)に多いようです。数年ぶりの多い報告であり、また増加傾向にありますので、現在少ない地域(阿蘇・御船・水俣)の発生など、今後の推移に注意が必要です。

8. 突発性発疹症 : 134件(先月比0.7、前年比0.7)と、いつもの夏よりやや少なめに推移しています。県下から、定点当たり3~4件のほぼ平均した報告でした。阿蘇と御船からの報告はありませんでした。
9. 百日咳 : 報告は八代から6ヶ月未満児の1件のみでした。減少傾向にありますが、予防接種可能年齢からの発症ですので、地域での予防接種の啓蒙が必要です。成人の報告はありませんでした。
10. ヘルパンギーナ : 報告数302件(前月比0.4、前年比1.2)で、推移としては例年同様です。天草73件(定点あたり18.3)に多く見られ、菊池50件(同10.0)、に多いようです。この2地区以外は定点あたり一桁の報告でした。
11. 流行性耳下腺炎 : 報告数130件(前月比0.7、前年比5.7)と、7月に比べれば減少したとはいえ、ここ数年では大きな流行となっています。流行の中心は、人吉・有明です。人吉では報告が37件(定点あたり12.3)、有明51件(同10.2)でした。人吉ではここ数年流行が継続しています。また他地域でも熊本の20件(同1.3)を除けば一桁台の報告があります。人吉からの流行性耳下腺炎からは、人吉地区の医療機関および関係者の皆様のご協力により、ウイルスが分離され、ムンプスウイルス流行が確認されています。発症した年齢が全て1歳以上であり、また限定した地域での複数年にわたる流行が継続していますので、医療機関はもちろんのこと、行政にも協力して頂き予防接種啓蒙も必要と考えます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数238件(前月比1.3、前年同月4.9)と増加が続いています。全国的にも同じ傾向ですが、熊本は全国トップの発症で警報レベルに達しています。地域別では熊本205件、菊池17件、八代2件、有明8件、天草6件の報告です。年齢別発症では乳幼児期と20代以降にピークがあり、家族内感染に注意が必要です。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症: 報告数42件(前月比0.8、前年同月比0.8)で、前月比10件減少し、前年同月比11件減少しています。男女別は、男性20件、女性22件でした。年齢別は、女性は15~34歳に18件と多く、男性では15~39歳に15件と多く見られています。地区別は、熊本が29件と多く、次いで御船4件、八代3件、菊池・有明・宇城各2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症:
報告数13件(前月比0.6、前年同月比0.5)で前月比9件減少し、前年同月比13件減少しています。男女別は、男性1件、女性12件でした。年齢別は、女性の25~39歳に9件でした。地区別は、熊本が5件、菊池4件、八代2件、御船・宇城各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ : 報告数4件(前月比0.4、前年同月比1.3)で、前月比6件減少、前年同月比は1件増加しています。男女別は、男性3件、女性1件でした。年齢別は、男性は20~39歳3件、女性は25~29歳に1件でした。地区別は、熊本・宇城各2件でした。
4. 淋菌感染症 : 報告数23件(前月比1.4、前年同月比0.6)で、前月比7件増加、前年同月比15件減少しています。男女別は、男性に18件と多く見られています。年齢別は、男性は20~44歳に15件と

多く見られ、女性は15～24歳に4件でした。地区別は、熊本が16件と多く、次いで宇城3件、有明2件、菊池・御船各1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 : 報告数 16 件(前月比 0.8、前年同月比 0.7)でした。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 : 報告数 6 件(前月比 0.9、前年同月比 6.0)でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症 : 報告数 3 件(前月比 3.0、前年同月より 3 件増加)でした。3 カ月連続で報告あり要注意です。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎 : 報告数 0 件(前月比、前年同月より 2 件減少)でした。
2. 無菌性髄膜炎 : 報告数 5 件(前月比 0.5、前年同月比 2.5)でした。
3. マイコプラズマ肺炎: 報告数 26 件(前月比 2.2、前年同月比 5.2)でした。増加傾向であり要注意です。
4. 感染性胃腸炎(ロタウイルス) : 報告数 0 件(前月に同じ、前年同月より 1 件減少)でした。

届け出対象感染症

- | | | |
|--------|-------------------|--------|
| 1 類感染症 | : 報告はありませんでした。 | |
| 2 類感染症 | : 結核 | : 35 件 |
| 3 類感染症 | : 腸管出血性大腸菌感染症 | : 3 件 |
| 4 類感染症 | : 重症熱性血小板減少症候群 | : 1 件 |
| | 日本紅斑熱 | : 1 件 |
| | A 型肝炎 | : 1 件 |
| 5 類感染症 | : カルバペネム耐性腸内細菌感染症 | : 2 件 |
| | 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | : 1 件 |
| | 梅毒 | : 1 件 |